

四日市市立山手中学校 3年 長谷川 蓮「～三重の未来と私の未来～」

私は三重に生まれ三重県で育った。生まれも育ちも四日市。

私は小学生のときまで近くにテーマパークやアクティビティ、おいしい食べものなどあ  
たりまえにあるものとして三重県に馴染んでいた。

だが、私は中学入学と同時に地元の中学ではなく、東京都の区立中学へ行くことを選択  
した。私はレスリングで当時全国大会で2年連続優勝をし、オリンピック強化指定選手とな  
ってナショナルチームに所属したのだ。

私は地元を離れ競技をすることに対して、新生活、将来に胸を膨らませていたのだ。

しかし、想像とはかけ離れた生活だった。親から離れて中学一年生から寮生活をしてい  
て、とてもホームシックになった。早く帰りたいとずっと考えてしまう。生活が変わっても  
競技で結果を残せない現状。私は生活がしんどくなり、九ヶ月で地元へ戻ることになった。

三重へ戻ると、みんな温かく迎え入れてくれた。四十二キロとやせ細っていた体が、心  
の落ちつきもとりもどし、一週間で四十八キロにまで増えた。中学のみんなは何ごともな  
かったように接してくれ、休日は家族と一緒にアウトレットに行ったりすることが何よりも  
楽しかった。

私にとって三重県とは、私を初心に戻してくれ心が落ちつく場所だ。

三重県に戻ったことで中学三年生になった今、JOC、全国中学生大会、全国中学選抜大  
会の三つの全国大会で優勝し、アジア大会でも三位に入ることができた。この結果は三重  
県にいないとれなかった。

三重県は私を強くし、力となってくれるところだ。

高校からは佐賀県へ行きレスリングを続ける。最初はとても考えたが、もう失敗しない。  
また私を支えてくれる場所になるだろう。